

風力発電能力 原発超す

世界合計 実際の発電量は3分の1

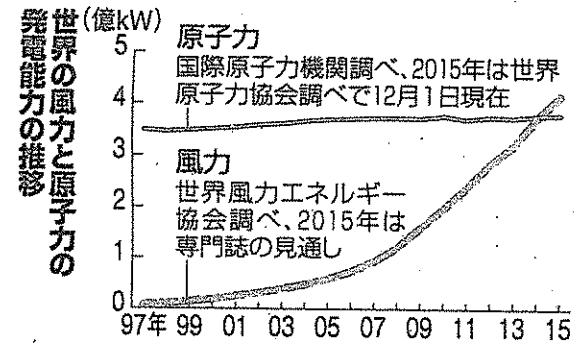
世界の風力発電施設の発電能力は今年、4億キロワットを超え、原発を初めて上回ることがわかった。発電コストが大幅に下がり、普及を後押ししている。

風が吹く時にだけ発電する風力は稼働率が30%程度で、80%近い原発に比べ実際の発電量は約3分の1程度とみられる。ただ、世界風力エネルギー協会（WWEA）は、風力の発電能力が2030年には20億キロワットに達すると見込む。いまの傾向が続けば、発電量でも風力が原発を超える可能性

がある。

WWEAの6月末時点の集計で風力の発電能力は3億9293万キロワット。風力発電の専門誌「ウィンドパワー・マンスリー」が27日に発表した今年末時点の見通しでは、4億1496万キロワットに達するという。一方、世界原子力協会によると、原発は12月1日時点で3億8225万キロワットとなっている。

同誌によれば、国別で今年最も風力発電施設を増やしたのは中国で、1932万キロワット。次いで米国594万キロワット、ドイツ385



12/30
EAD

万キロワット、インド314万キロワットの順となっている。日本の増加は6.4万キロワットだった。

市場の拡大と技術革新によって風力の発電コストは下がってきている。国際再生可能エネルギー機関によると、昨年は1キロワットあたり6～9円（約7～11円）で、火力発電の4.5～14円と並んでいる。（石井徹）